

PDF版 小説 体験版

魔術師リリー と 女子校生

- ◆キャストボイス:ちよ
- ◆イラスト:えふいろん
- ◆シナリオ:月見

★編集構成★
ひなた古書堂

あらすじ

流浪の魔術師

リリー・シュゼットロック

とある王国貴族から依頼を受けて
山賊退治に出かけたが
あえなく捕まってしまった。

囚えられた牢屋

部屋の隅には、見慣れない服を着た少女が一人

手足が使えない、魔力も練れない
そんな状況の中の脱出劇

度重なる拘束については
ついには力尽きかけるが……

制作・著作 ひなた古書堂
<http://hinatakosyodou.blogspot.jp/>

本編はボイスドラマ【魔術師リリーと女子校生】を

小説形式に編集した作品となります。

ボイスドラマは含まれておりません。ご了承をお願い致します。

本作品は体験版となります。作品の途中までお楽しみ頂けます。
動作確認などや、作品に雰囲気などを感じて頂ければ幸いです。

ここは精霊と魔法が息づく世界。

とある理由から世界を巡り、世界を知るための旅に出た、私こと魔術師『リリー・シュゼットロック』

旅を続けていると、資金や食べるためにも、魔術師ギルドや顔見知りになった国や貴族関係から依頼を受けて、危険な仕事も嫌々やらないといけないのが最近の悩み。

今回のお話もそんな私の報告書のようなモノである。

【リリーと女子校生】

目を覚ますとそこは馬車の中だった。

何も見えない、何か布のようなものを目に巻き付けられている。
起きあがろうとした私は、バランスを崩し前に倒れ込んだ。

「あんっ！……」

手足が動かせない。

後ろに回され、交差させた手首からは、縄の感触。ギチギチと嫌な音を鳴らしている。足首も同じように縛られている。手足は、力任せに縛ったらしく縄が当たる部分が凄く痛い。

「んんっ……痛い。私、山賊に捕まっちゃったんだ……」

私は必死になつて縄の戒めから逃れようとしたが縄が音を立てるだけで無駄に終わった。必死になつてもがいていると、やがて馬車は止まり、私とは何かの建物の中へと担がれていった。

「え、ちよつ……ら、乱暴しないで下さい……ちよつ、変なところ……触らないで……ください……」

乱雑に担がれた私は建物の中に入ると、手首足首の拘束を解かれないうまま、そのまま立たされ、さらに縄で縛られた。

「んんっ……んあ、く、苦しいです……、やめて……ください」

胸を強調するかのようにしつかりときつく縛られ私は思わず声をあげた。しかし山賊は何も気にせず手早く残りの下半身を縛り始めた。太ももとひざをきつく縛られ、改めて足首に縄を足された。



そのまま身動きが取れない状態で私は立たされた。私を縛っている縄の一部は天井の梁へと回され私は爪先立ちに。吊られた状態になり、ほとんどその場から動けなくなった。

そこでようやく目隠しを外され私は周りを見渡した。薄暗い小屋の中には私を誘拐したのであろう山賊らしい男が一人。小屋の端っこには少女が一人いた。その少女は、部屋の端っこでうずくまっている。

「何も抵抗が出来ないようにして満足ですか？ 貴方より間違いなく弱い、私やその少女を縄や鎖でつないで、それで貴方は……むっ、うむううう！？」

私の文句は最後まで言い切らないまま、山賊は無言のまま私に何かの布きれを口に突っ込んできた。

「うわえうえふあうわあい！（止めてください！）」



そしてそのまま同じような布を私の口に噛ませて、厳しく巻きつけた。
私が喋れない事を確認すると山賊は別の部屋へと向かった。
しばらく私は、縄と格闘していた。

「んっ、んっ、うむう……ふふふいい（苦しい）……」

縄は緩む気配がなく、また猿轡によつて意味をなさない声だけが部屋に響いた。

体験版はここまでとなります。

続きは本編にてお楽しみください。

ここまでのご拝読、ありがとうございます。

本作品に触れて頂いた事に最大限の感謝を。